ふかまちのまど

第二二号　〇三年〇九月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八二

町内会連合会活動報告

一、役員体育委員会議（八月二日）

盆行事の実施計画を細部に亘り検討決定しました。

種目は獅子舞を含めて五種目、予算総額は二五万円でした。

二、盆行事の練習

盆踊りは七月三〇、八月三、八月七の各日に小学校体育館で、女性会の協力を得て、主な対象を小学生として実施。

獅子舞は七月二五、八月六、八月十一の各日に実施。少人数ながら全種目を実施することとしました。

三、やっさ祭参加（八月九日）

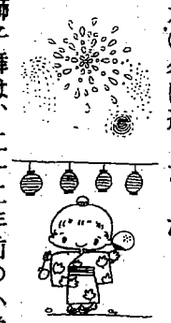
台風十号を危うく免れて、昨年同様にサンライズ大池・山田脳外科と合同チームで参加しました。

深町としては昨年の二十人よりも参加人員は減りましたが、他チームに負けず踊り通して、深町をPRしました。

四、盆行事（八月十五日）

例年のとおり盆踊りを中心に実施しました。

今年の盆踊りは女性会や女の子が浴衣姿で華やかに踊り、子供の踊り手も多く、最後の伊勢音頭まで大勢が踊り、練習の成果が表れていました。踊り手は一六〇名に達しました。



獅子舞は、二十二年前の小学校落成式以来の全種目の実施で、道行、拝み、さんばそう、二接ぎ、三接ぎ、舞い上げの順に実施しました。

練習不足ではありましたが、獅子舞を全く知らぬ人も多かっただけに、多くの町民に御覧頂くことが出来たことは、深町の伝統芸能継承の面からも非常に有意義であったと考えます。

その他、例年どおりに太鼓踊り、花火、ビンゴエームを実施しました。

来場者にはジュースとビンゴゲームの景品を配りましたが、総人数は昨年を上回る三五〇人位でした。

▲▲

（事務局）

深小だより

エッシャーに魅せられて

皆さん、エッシャーっていう人をご存知ですか。M・C・エッシャーさんはオランダの版画家です。また、彼は物理学者（結晶学者）からその作品を興味深く見つめられたという経歴を持つ人です。

私が最初に彼の作品に出会ったのは、今からおよそ三十年くらい前のことです。そのとき見た作品は「昼と夜」と題された田園の上を飛ぶ白鳥の群れと反対の方に飛ぶ黒い白鳥（黒鳥）の群れです。

このとき、私はすごいものを見た思いがしました。というのも、美術と数学の融合を見た思いがしたからです。数学的用語を使えば、彼の作品は平行移動・対称移動・回転移動を有効に使った芸術作品です。これは「敷き詰め」といって、空間を隙間なく埋め尽くすものです。みなさんも一度は目にされたことがおありではないでしょうか。

日本では、「刺し子」にこれがみられます。また、視点を街に向ければ、「歩道のタイル」などにも見受けられます。このほかにも、生活の中に数限りなくこのようなものが見つけられます。

残暑厳しい折、みなさんも息抜きにちょっと探してみませんか。

どうぞ、よろしくお願いします。

▲▲

深小学校四年担任　川西宏幸

如水館チアリーディング部 日本選手権大会四位入賞 おめでとうございます！

八月二二～二四日の間、国立代々木競技場で開催されたチアリーディング日本選手権大会に出場した如水館高校チアリーディング部は、高校部門で第四位入賞を果たしました。

優れたチームワークと、大技の演技は大きな魅力。更なる飛躍が期待されます。

▲▲

（ふかまちのまど　編集室）

子ども会だより

子ども会会長　河原光浩

◇ゆうわ会（三菱主催）

七月二十日

ソフト部　八―一　深
パワーズ
キック部

三位入賞

◇やっさ杯

八月九日

ソフト部のみ
須波ハイツ　三―九　深
パワーズ　七―〇　深

ソフト部も入賞めざして頑張ります。

女性会だより

深町女性会　紙谷邦子

女性会八月活動報告

一、石鹸作り　一日

十二名参加

手作り石鹸は、台所の油汚れその他諸々の汚れがとてもよくおちます。好評です。

◇準備するもの◇

- 廃油　3リットル（何回も使った油ほどよい）
- 水　0.85リットル
- 苛性ソーダ　450g
- 大き目のプリキのバケツ
- かきまぜる棒
- 手袋
- 固める入れ物

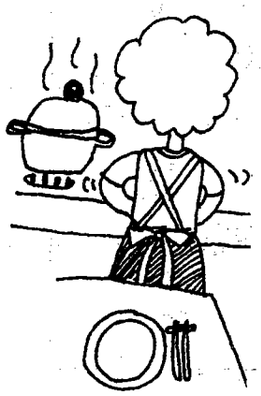
ご家庭で簡単に作れます。作り方については、女性会員へお気軽におたずねください。

二、いきいき食生活改善講習会　四日

十四名参加

・色々な食品からカルシウムをとって丈夫な歯を作ろうというテーマで食生活改善推進員連絡協議会の方から二名指導にこられました。

・地域の産物や身近にある食材を活かして出来る調理実習でした。どの料理も胃にやさしく、さっぱりとしてとても美味しかったです。



三、盆踊り練習の協力

三日　八名
七日　十一名

盆踊り参加

十五日　約二十名　▲▲

深町各種団体九月行事予定

◆町内会連合会
▼体育委員会　中旬
◆小学校・幼稚園
▼第二学期始業式・安全点検　一日
▼水泳記録会・英語活動　二日
▼集金日・避難訓練　九日
▼貯金日　十日
▼PTA役員会　十一日
▼参観日・ライオン号来校　十二日
▼英語活動　十六日
▼修学旅行　十八～十九日
▼テーマタイム　二十六日
▼子ども国際教室・英語活動　三十日
◆女性会
▼懇親会　上旬　第三水曜
中旬　第一月曜
下旬　第二日曜
◆子ども会
▼三原市子ども会球技大会　十四日

展望席

尾道市立高須小学校の問題は、県教委、市教委、県教組からそれぞれ調査報告がされたが、調査内容や見解に大きな隔たりがありました。マスコミ批判について、中国新聞は「報道や取材に行き過ぎがあったとは思っていない。ただ、批判があった以上、謙虚に耳を傾けなければならない」との認識を報じています。

これらのことからもこの問題を考えるとき、いずれも自分達の主義主張の実現や目的達成に傾注する余り、相手のことをあまり考えていないように思われます。それぞれの立場の人がもっと思いやりの心を持って対処していたらこんな事態（二名の方の自殺、混乱）にはならなかったと思えてなりません。

県教委は、最近中学生による凶悪事件が相次いで起きたため、「児童、生徒に、命の大切さや思いやりの心を育む教育を、あらゆる機会を通じて徹底してください」と県内の公立学校に通知したとの報道がありました。

高須小学校の問題を、皆で（マスコミも含めて）思いやりの心をもっともっと持って、子ども達にその心の温かさが伝わるように解決されることを切に望むものです。

そのような心構え（心が前）でいたら、自然に「命の大切さや思いやりの心が育む」のではないでしょうか。子ども達は澄んだ目で、大人達の動きをじっと見つめているはずです。そして、皆に笑顔があふれる日が早く来ることを願っています。

深小時代の想い出(9)

元深小学校長　坂井吉徳

「遠足の巻」

昭和三十二年の春の遠足は、八幡町の御調八幡宮に行くことになりました。

私は、一度も行ったことはなかったのですが、「一度、お母さんと一緒に峠越えをして行ったことがある」と言うA君を信じ、安心して案内役にして出かけました。

ところが、以前と比べて人通りが少なくなったためか、山はだんだんと荒れていて、深町側の八合目あたりで道はなくなり、迷路に入ってしまいました。

それでも、何とか頂上に到達した時は、もう十二時を少し過ぎていました。

八幡町側の山道は、何とか分かる程度でしたが、一時頃御調八幡宮に着き、やっと昼食にありつきました。

そして、(これは大変なことになる)と考え、昼食後は何もせず、帰りの準備をさせて出発しました。

しかし、頂上までにかなり時間がかかり、一列になって山下りに入った頃は、もう日は西に傾いていました。

K君を先頭にして、一列で、一番最後は私が担当して、一さい休けいなしで急いで、山を下りました。

やっと上組に辿り着いた時は、日は暮れかけていました。

心配された保護者の皆さんが、次々に出迎えに来て折られました。

そして、児童一人ひとりを、それぞれに引き渡して、私はへとへとになって学校に帰ると、「先生！何を考えているのだ！ちょっと校長室まで来なさい」と校長先生に怒鳴られました。

大声など出されたことのない児玉校長先生から、懇々とさとされ、大説教を受けました。

子ども達に昔の人の通った道にふれさせようと、目的はとてもよかったのですが、実施要領、企画、実行性に欠陥だらけだったことを私は思い知らされました。

このことが、私が校長として再度深小へ赴任した時、一番初めに想い出した、苦い苦い思い出の一つです。

▲▲

如水館　吹奏楽部
広島県代表決まる

第四十四回広島県吹奏楽コンクール高校A部門において「金賞」受賞。並びに、全国大会へと繋がる第四十四回全日本吹奏楽コンクール中国大会の出場権を得ました。

これまで広島県東部において本大会高校A部門で中国大会に出場したことのある学校は、四十四年の歴史の中で十三年前に一校あるだけで、今回の如水館吹奏楽部（部員に深町出身の高田三穂子さん、成末香里さんがいます）の出場は、大きく評価することができます。

全日本吹奏楽コンクール中国大会出場おめでとう！全国大会目指して頑張ってください。

▲▲

（ふかまちのまど　編集室）

随筆　それでも米つくり

中之町　河野　強

今年も減反の通知が来た。年々数字が大きくなっている。米が余るから、米の値段は上がらない。百姓をいためつける政策、小百姓はやめろの政治の感がする。

若い者は農業ばなれ、米を作る人間も歳をとる。米を作るのも大儀になる。

自分が食べるぐらいなら、いくらもいらないし、さりとて田圃が家の周りで目立ち、荒らす気にもなれない。Tさんの所には田植えの時季、思い切って植えるのをやめられたのを見て、気分も一層しずんでしまった。

「金さえ出せば、幾らでも米は買える」と言っても、もう一線を退職して迫われた身。

遊んでいても金は掛るし、第一身体の為にならず、儲けぬきの趣味のつもりで、とまた気をとりなおしてやりだした。

長年の百姓魂は、いざ始めるとまた一生懸命になる。でも、今年は極力手をはぶき、肥料も控えめ、出来ただけ収穫すればよい、との気分転換でやっているが、それが良かったのか、意外と順調に出来、まあまあの出来になっている。

穂肥もやったが、連日のように降り続く梅雨空、日照時間が不足したせいか、やっぱり生育が遅れている。

私の地球サミット（6）

中組　安藤　志保

《サミットで出会った人たち》

前回（一九九二年）ブラジルでの地球サミットで子ども代表として「リオの伝説のスピーチ」をした、セヴァン・カリス＝スズキさんをご存じでしょうか。サミットでの活躍や世界各国から取材（NHKも取材をしていました）で忙しいセヴァンと、私も話をするチャンスに恵まれました。

九才の時にECOという環境学習グループを立ち上げ、十二才の時に「自分たちの将来が決められる会議」に、「子どもこそが参加すべき！」と、自分たちで費用をためカナダからリオサミットに参加しました。

私がその「伝説のスピーチ」を知ったのは六年前。「私たちにどんな世界を残してくれるの？」という問いかけに、子どもの純粋な瞳にまっすぐ見つめられたような、そんな気持ちになりました。

私たちは今、生きるためになくてはならない、水、空気を汚していています。生きるために必要な食糧をつくる土地は、どんどん減っています。子どもたちに何を残すのか、今、私たちみんなが問われているのではないでしょうか。

「何かを決める時には、必ず、次の世代、子どもたちにとってどうか、を考えてください」

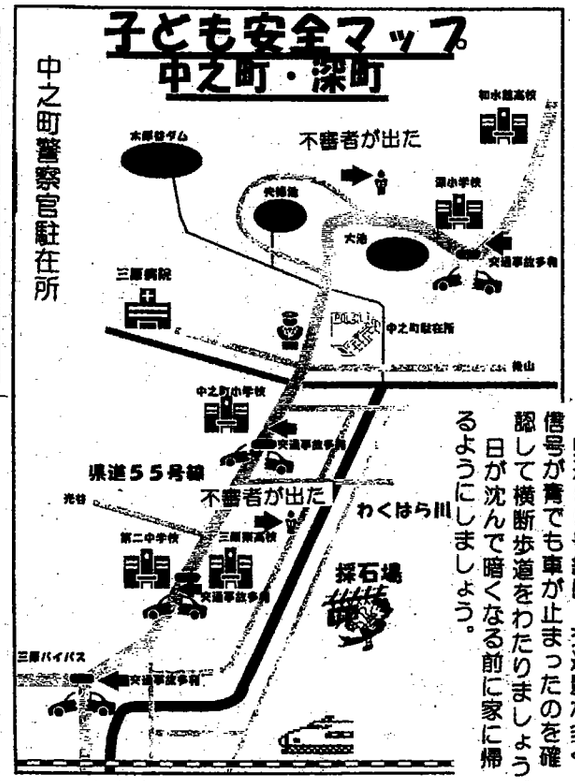
「大切なのは、会議で何が決まるか、ではなくて、私たち一人ひとりがどうするか、なんです」

～セヴァンの言葉より～

▲▲

子ども安全マップ
中之町・深町

中之町警察官駐在所



県道55号線は、交通量が多く、信号が青でも車が止まったのを確認して横断歩道をわたりましょう。日が沈んで暗くなる前に家に帰るようにしましょう。

昭和の戦争と平和

深小四年生　安藤千晶

八月十四日、「昭和の戦争と平和」という番組を見た。

まず、見てから思ったことは、「関係のない人をころしたりすることはいけない。」ということでした。戦争をやりたい人同士がやるのはいいけれど何もしていない人をころしたりするのはいけないと思った。

つぎに思ったことは、なぜ戦争をするのかということです。なぜ「話し合い」でかいけつできないのでしょう。

私は、話し合いでかいけつしたほうがいいと思います。なぜかというと、本当に戦争でとくする人はいないからです。▲▲

我々農家の厄日、二百十日ごろの暴風雨時季を事なく過ぎれば安心だが、自然を相手の農業は何処までも苦労が付き物だ。

いかがなりますことやら、願わくば、病気をせんように頑張らなくちゃー、と気を引き締めている。

▲▲

自然の気象条件は、人間の力では如何ともしがたく、その対応に悩む。ああ・・・米作りも可成の技術がいるものだ。

これから、穂が出て黄金の波をうつまで後二ヵ月。紋枯れ病、稲熱病（イモチ）、浮塵子（ウンカ）やカメ虫などの害虫に加えて、稲の植田が少ないので、スズメの集中攻撃を受け悩むことになるだろう。